

各年度における指定障害福祉サービス等並びに指定通所支援等の種類ごとの必要な量の見込み（活動指標）

※ 第1部会が所管する分野1～3に該当するもの

指定障害福祉サービス等並びに指定通所支援等について、現在の利用者数を基礎としつつ、近年の利用者数の伸びや、施設・病院からの地域移行にともなうニーズなどを踏まえて、必要なサービス量を見込みます。

なお、今後予定されている制度の見直し等によって利用ニーズが変化することも考えられることから、各年度におけるそれぞれの事業の見込量の確保にあたっては、そのような利用ニーズの変化にも柔軟に対応できるよう努めていくこととします。

（1）訪問系サービス

○ 居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	1,989人	2,094人	2,204人
利用時間	41,929時間	42,757時間	43,630時間

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用量：月平均利用延べ時間（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用時間）

見込量の設定の考え方

訪問系サービスは、着実に利用が増加しており、今後においても障害のある人の生活を支えるサービスとしてのニーズは高く、同様の増加が見込まれることから、近年の伸び率を基本として、平成30年度以降の見込量を設定しました。

【実施に関する考え方及び見込量確保のための方策】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

(2) 日中活動系サービス

ア 生活介護

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	2,925人	2,965人	3,006人
利用日数	57,233人日	58,015人日	58,817人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

生活介護は、着実に利用が増加してきており、今後においても障害のある人の日中活動を支えるサービスとしてのニーズは高く、同様の増加が見込まれることから、近年伸び率を基本として、平成30年度以降の見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

イ 自立訓練（機能訓練）

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	11人	11人	11人
利用日数	229人日	229人日	229人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

自立訓練（機能訓練）の利用状況は概ね一定の水準で推移しており、またサービス提供が可能な設備や人員体制を整備している事業所が限られるため、新規事業所の増加も見込めない状況があります。このため、今後も現在のサービス提供量が継続するものとして見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

ウ 自立訓練（生活訓練）

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	196人	204人	212人
利用日数	3,603人日	3,970人日	4,374人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

現在の利用者数に加えて、直近の通所による生活訓練の利用者の傾向を反映して見込量としました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

エ 就労移行支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	394人	412人	431人
利用量	6,589人日	6,890人日	7,208人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

平成26年度から平成28年度の3年間の伸び率や成果目標として設定した平成32年度末の利用者数を勘案し、見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

事業所や利用者数の増加に向けて、法人等に新たな事業所の設置や定員の拡大、必要なサービス提供体制の確保に向けての働きかけや助言等を行うとともに、離職者や特別支援学校卒業生等に、就労移行支援事業の利用を働きかけていきます。

オ 就労継続支援（A型）

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	987人	1,039人	1,093人
利用日数	19,836人日	20,881人日	21,981人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

利用者が増加しており、今後における利用ニーズも高く、引き続き一定規模の事業所の開設を見込まれることから、直近の増加状況を踏まえて見込量を設定します。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

カ 就労継続支援（B型）

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	2,244人	2,397人	2,561人
利用日数	38,985人日	41,858人日	44,941人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

利用者が大きく増加しており、今後における利用ニーズも高く、事業所数の増加も見込まれることから、これまでの実績と同様の増加が見込まれるものとして、直近の増加状況を踏まえて見込量を設定します。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

キ 療養介護

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	285人	305人	315人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

現在の利用者数に加えて、直近の利用者の傾向及び定員数の増加を反映して見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

また、北九州市立総合療育センターの建替えに伴う、療養介護の定員数の増加等により、社会資源の確保を図ります。

ク 福祉型短期入所

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	529人	613人	711人
利用日数	3,190人日	3,664人日	4,207人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

着実に利用が増加してきており、今後における利用ニーズも高く、これまでの実績と同様の増加が見込まれるものとして、直近の増加状況を踏まえて見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

ケ 医療型短期入所

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	114人	150	198人
利用日数	495人日	608人日	746人日

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

着実に利用が増加してきており、今後における利用ニーズも高く、これまでの実績と同様の増加が見込まれるものとして、直近の増加状況を踏まえて見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

また、北九州市立総合療育センターの建替えに伴う、短期入所の定員数の増加により、社会資源の確保を図ります。

(3) 居住支援・施設系サービス

ア 自立生活援助

事業量の見込み

見込む単位等	H 3 0	H 3 1	H 3 2
利用者数	人	人	人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

※県との協議を踏まえ見込量を算定予定

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

新たにサービス提供を検討している事業者への情報提供、ならびに開設に向けた支援やサービスの質の確保に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

イ 共同生活援助（グループホーム）

事業量の見込み

見込む単位等	H 3 0	H 3 1	H 3 2
利用者数	1, 2 4 3 人	1, 3 6 7 人	1, 5 0 4 人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

利用者が増加しており、今後における利用ニーズも高く、引き続き一定規模の事業所の開設を見込まれることから、直近の増加状況を踏まえて見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

ウ 施設入所支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	1,463人	1,455人	1,448人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

直近の利用者の推移や成果目標として設定した平成32年度末の利用者数を数値に基づき、見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保及び良質なサービスの提供を図ります。

(4) 相談支援

ア 計画相談支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	8,100人	8,600人	9,200人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

毎年の利用者数の増加と計画を作成する相談支援専門員のこれまでの増加数を踏まえ、平成32年度における障害福祉サービス等利用者数を10,200人と見込み、そのうち90%が相談支援事業所作成の利用計画を利用するものとして見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

計画相談支援（サービス等利用計画作成）については、セルフプラン等を含めたサービス利用計画の作成を、ほぼ全ての障害福祉サービス等利用者が終了したことから、今後は相談支援事業所が作成する利用計画への移行を進める必要があります。

相談支援事業所の相談支援専門員数の増加を図るなど、見込量の確保を図ります。

イ 地域移行支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	45人	50人	55人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

平成26年度からの3年間の実績と、伸び率を勘案し見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

精神科病院において、精神障害のある人を支える医療従事者（精神保健福祉士、看護師、作業療法士等）に対し、当該サービス制度の仕組みを周知・広報し、各病院の利用実績増加を図ります。

ウ 地域定着支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用者数	80人	85人	90人

※ 利用者数：月平均利用人数（人/月）

見込量の設定の考え方

平成26年度からの3年間の実績と、伸び率を勘案し見込量としました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

当該サービスを実施したことのない指定一般相談支援事業者等を対象に、事例検討等を交えた研修会を開催し、制度の普及を図ります。

(5) 障害児支援

ア 児童発達支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	692人	733人	776人
利用日数	8,866人日	9,397人日	9,960人日

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

児童発達支援は、年々事業所数の増加に伴い、利用者数も増加しており、今後も利用ニーズが高いと想定しています。このため、今後も増加傾向が続くと想定し、見込み量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

イ 医療型児童発達支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	0人	5人	10人
利用日数	0人日	20人日	40人日

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

医療型児童発達支援は、現在のところ、本市に開設事業所はありませんが、医療的ケア児を受け入れている児童発達支援事業所は数箇所あります。

そこで、医療的ケア児の利用希望数を参考に、本来、医療型の利用ニーズはあると想定し、目標値として見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

病院併設の福祉型の児童発達支援事業所等に、制度や報酬等に関する情報提供や支援を行うことにより、見込量の確保に努めます。

ウ 放課後等デイサービス

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	2,390人	3,035人	3,854人
利用日数	29,436人日	37,383人日	47,476人日

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

放課後等デイサービスは、平成24年度以降年々事業所数の増加に伴い、利用者数も増加しています。

このため、今後も増加傾向が続くと想定し、見込み量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

エ 保育所等訪問支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	71人	76人	82人
利用日数	75人日	81人日	87人日

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

保育所等訪問支援は、利用者数の増加及び新規の訪問先の拡大に伴い、今後も利用者数が増加すると想定し、見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

オ 居宅訪問型児童発達支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	0人	3人	6人
利用日数	0人日	12人日	24人日

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

※ 利用日数：月平均利用延べ日数（月平均利用人数×一人当たりの月平均利用日数）

見込量の設定の考え方

居宅訪問型児童発達支援は、平成30年度の国の制度改正の中で創設される新規事業であり、サービス量の目標値として、在宅の医療的ケア児の外来保育等の利用実績を参考に見込量を設定しました。

※ 在宅の医療的ケア児の外来保育

市内の医療的ケア児の中に、児童発達支援の通所を希望しているが、特別な配慮が必要なため通所ができないケースがあります。このような子どもに対して、総合療育センターが試験的に人数を限定し外来保育として受け入れ、療育を行っています。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

児童発達支援センター等への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

カ 福祉型障害児入所施設

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	66人	66人	66人

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

見込量の設定の考え方

福祉型障害児入所施設の利用者数は、平成27年度から3年間横ばい傾向です。国の制度において、入所から地域生活へ移行する取組を推進しており、今後も大幅な増加はないと想定し、現状維持として見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

キ 医療型障害児入所施設

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	28人	31人	34人

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

見込量の設定の考え方

医療型障害児入所については、現在のところ満床で利用者は待機状態が継続しています。平成30年11月、新・総合療育センターが開所予定であり、定員が増加するため、利用者数の増加を想定した見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

ク 障害児相談支援

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
利用児童数	2,700人	3,400人	4,200人

※ 利用児童数：月平均利用児童数（人/月）

見込量の設定の考え方

障害児相談支援の利用者数は、近年非常に増加傾向にあり、今後も大幅な増加が見込まれることから、現状の増加傾向を勘案した見込量を設定しました。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

ケ 医療的ケア児に対する関連分野の支援を調整するコーディネーター

事業量の見込み

見込む単位等	H30	H31	H32
配置人数	1人	2人	3人

※ 配置人数：コーディネーター配置人数（人/年）

見込量の設定の考え方

地域における医療的ケア児のニーズ等を勘案して、必要となる医療的ケア児等コーディネーターの配置人数の見込みを設定しました。

※ 医療的ケア児等コーディネーターとは

地域の障害児通所支援事業所、保育所、放課後児童クラブ及び学校等において医療的ケア児等への支援に従事できる者を養成するための研修及び医療的ケア児等の支援を総合調整する者

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

サービス提供事業者への情報提供やサービスの質の向上に向けた支援等を行うことにより、見込量の確保を図ります。

(6) 発達障害者支援関係

ア 発達障害者支援地域協議会の開催

事業量の見込み

見込む単位等	H 3 0	H 3 1	H 3 2
開催回数	2 回	2 回	2 回

※ 開催回数：年間開催回数（回/年）

見込量の設定の考え方

当協議会の前身である「発達障害者支援体制整備検討委員会」の開催回数を踏まえて、見込量を設定します。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

発達障害児者の支援に関わる機関やサービス事業者等が、定期的に課題を共有し、連携緊密化を図る場とすることで、切れ目のない支援体制の構築を図ります。

イ 発達障害者支援センターによる相談支援

事業量の見込み

見込む単位等	H 3 0	H 3 1	H 3 2
相談件数	3, 2 0 0 件	3, 2 0 0 件	3, 2 0 0 件

※ 相談件数：年間相談件数（件/年）

見込量の設定の考え方

過去3カ年の助言件数を踏まえて、見込量を設定します。

【実施に関する考え方及び見込量確保のための方策】

北九州市立総合療育センター及び特別支援教育相談センター等、関係機関との連携を図りながら、相談支援を行っていきます。

ウ 発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネジャーの関係機関
への助言

事業量の見込み

見込む単位等	H 3 0	H 3 1	H 3 2
助言件数	5 5 件	5 5 件	5 5 件

※ 助言件数：月平均件数（件/年）

見込量の設定の考え方

過去3カ年の相談件数を踏まえて、見込量を設定します。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

発達障害児者支援に携わる関係機関に対し、対処方法に関する助言・指導、事例検討等を通して支援を行います。

エ 発達障害者支援センター及び発達障害者地域支援マネジャーの外部機関
や地域住民への研修、啓発

事業量の見込み

見込む単位等	H 3 0	H 3 1	H 3 2
研修、啓発件数	1 3 件	1 4 件	1 5 件

※ 研修啓発件数：研修や啓発を開催した件数（回/年）

見込量の設定の考え方

過去3カ年の研修等件数を踏まえて、見込量を設定します。

【 実施に関する考え方及び見込量確保のための方策 】

行政機関の職員をはじめ、商業施設の従業員、警察官など、発達障害児者の特性を理解した適切な対応を知っておくべき職業の人々を対象とした研修を実施するとともに、イベントやシンポジウムの開催等をとおして発達障害への理解促進に取り組みます。